

令和2年度(元年度実績) 総合評価書 <施設名 多治見市子ども情報センター>

1. 指定管理者名	公益財団法人 多治見市文化振興事業団
2. 指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日
3. 業務の範囲	(1)図書館法第3各号に規定する事項に関すること。 (2)図書館の施設及び設備の維持管理に関すること。 (3)市史販売等に係る料金の徴収に関すること。 (4)読書の普及活動及び読書団体の支援に関すること。 (5)図書館法第2条に掲げる目的のために必要な事業の運営に関すること。

4. 採点表		評価項目	細目	配点	採点基準	実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)	分析、評価、指示等	得点
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(10点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満~95%:4点、95%未満~85%:3点、85%未満:2~0点 ・子ども情報センター:平均値比(115%)= 利用冊数(74,531冊)÷65,016冊(上記(2)適用)	105%以上 5点	年次報告書P260(利用冊数) ※平均値比●% =(R元度実績)÷(過去3年間実績平均値) 開館日数:日(R元:301日、過去3年間平均日数:297日) R元:74,531冊 過去3年間平均:65,016冊 (H30:69,380冊、H29:64,149冊、H28:61,518冊)	5点
			②利用人数	5	平均値比(注) 105%以上:5点、105%未満~95%:4点、95%未満~85%:3点、85%未満:2~0点 ・子ども情報センター:平均値比(114%)=利用人数(延べ15,053人)÷13,255人(上記(2)適用)	105%以上 5点	年次報告書P.260(利用人数) ※平均値比●% =(R元度実績)÷(過去3年間実績平均値) 開館日数:日(R元:301日、過去3年間平均日数:297日) R元:15,053人 過去3年間平均:13,255人 (H30:14,424人、H29:13,123人、H28:12,219人)	5点
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(15点)	15	仕様書以上:15~12点、仕様書に忠実:11~9点、仕様書の一部不実施(軽微):8~7点、仕様書の一部不実施(中程度):6~3点、それ以下:2~0点 ・たじみ陶器まつり開催に合わせ、赤ちゃんとそのご家族を支える場所の提供や職員による絵本の読みきかせなどのサポートを実施、アンケートや対面よりニーズの把握に努め、その後の運営に活かした。(家族で参加できる事業を実施) ・たじみ子どもの権利の日協賛事業として、利用者参加型の事業を開催した。ひとりひとりの想いに寄り添いながら、互いを認めるきっかけに繋がる体験になり、明るくにぎやかなみんなの本棚を楽しむことができた。 ・年間60回の企画展示を実施、「さがせる、みつかる、えほんのひろば」等、蔵書を存分に活かしたレイアウトで、来館者が本を借りやすい図書館を極めた。	仕様書以上 14点	14点		
2	施設管理状況 (25点)	(1)施設管理業務の実施状況(10点)	①清掃	10	子ども情報センター:年次報告書P272(①清掃) 業者による全館定期清掃年間2回、日常清掃を実施。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	10点
			②保守・点検		子ども情報センター:年次報告書P272(②保守・点検)	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
③保安・警備	子ども情報センター:年次報告書P272(③保安・警備)		適正(普通) 2点		適正に実施されている。			
④小規模修繕	子ども情報センター:年次報告書P272(④小規模修繕) 有償修理 全8件 総額 445,438円		適正(普通) 2点		適正に実施されている。			
⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)	子ども情報センター:年次報告書P273(⑤危険箇所の把握) 職員による月2回の日常点検及び年2回の定期点検をチェックシートに従い実施。		適正(普通) 2点		適正に実施されている。			
(2)その他管理業務の実施状況(15点)	①文書管理	12	子ども情報センター:年次報告書P273(①文書管理) ・多治見市のファイリングシステムに準拠する方法により、適切に文書管理を実施。	適正(普通) 2点	・不要な文書は作成しないことを心がけるとともに保管場所は退社時に施錠。			
	②環境への配慮		子ども情報センター:年次報告書P273(②環境への配慮) ・業者による年間2回の剪定と、職員による追加剪定を実施。 ・1階図書室に空気清浄機を設置。	適正(普通) 2点	・職員による道路側の追加剪定は、夏場に週1回実施する等、近隣の住民に危険が無いよう配慮し、敷地内の緑化スペースの確保と維持保全を実施した。			
	③バリアフリー		子ども情報センター:年次報告書P273(③バリアフリー) ・軽度の発達障害を持つ利用者(子ども)を把握、職員で共有し、適切な関わりを持つことで、十分に図書館を楽しんでもらうことができるよう心掛けている。 ・障がいのある方が利用される場合には、その都度職員が対応する体制をとっている。 ・ベビーカーや車椅子でも不自由なく館内を見回ることができるよう、毎日安全を確認。 ・より多くの人が正確にスムーズに情報を受け取れるデザインを目指している。	適正(普通) 2点	・講座のお知らせを作成する際、子どもから大人まで年齢を問わず伝わるデザインを心がけ、「見え方」の多様性を考えた配色や書体、フォントの使用に留意し、誰にでも「見やすい」デザインを意識した。			
	④備品管理		子ども情報センター:年次報告書P273(④備品管理) ・備品はすべて定位置を決めて保管している。	適正(普通) 2点	・必要以上に在庫を持たないことで、管理棚の省スペース化を徹底し、取り出したい備品がすぐに見つかるようにしている。			

2	施設管理状況 (25点)	(2)その他管理業務の実施状況(15点)	⑤個人情報保護	3	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する (期待以上:3点、適正(普通):2点、一部不備あり:1点、不備あり:0点)	子ども情報センター:年次報告書P274(④備品管理) ・図書館システムのサーバーは、事務用回線から独立させている。 ・各種申請書など個人情報記載されている書類は、確認処理が済み次第シュレッダーで粉砕処理をしている。 ・講座開催時は、参加者の撮影可否を確認し、通信やホームページの掲載に配慮している。	適正(普通) 2点	・図書館システムのサーバーは、事務用回線から独立させ、情報流失防止対策を取っている。	2点
			⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	事故なし。	事故なし・対応に不備なし 0点		0点
3	当該施設の経営状況 (5点)		①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満~100%:4点、100%未満:3点	収入285,006,228円÷支出283,241,154円=101% 学習館、子ども情報センター、市民活動交流支援センター含む。	105%未満~100% 4点		4点
4	より良い施設運営のための取組 (30点)	(1)市民・利用者の声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10~8点、適正(普通):7~5点、不備あり:4~1点	絵本を選ぶことが難しい、どのような絵本を選んだらよいか悩んでいる ・図書室内の既存の本棚やテーブル等をダイナミックに移動、フロアを最大限に活用し、絵本のひろばを設置。2カ月の期間、子ども達が絵本を選ぶことが楽しく感じよう空間を創出。 ・理想の本棚@子ども情報センターを企画。自分のお気に入りの本を紹介するとともに他の来館者のお気に入りの本を知ること、本選びの楽しさを広げた。 家族でワークショップに参加したい ・お子さんとお母さんで楽しんでもらった「アート×あそび体験」を休日に開催。 ・家族そろって参加できる「～絵本作家と楽しむ木版画体験～自分でつくろう!ミニ絵本バンドうぞ」ファミリーワークショップ ニットなアイツ」を新規開催。 2階研修室の学習室利用よりも1階図書室内でのゆるやかにつながらりながらの学習に人気 ・1階図書室内でより多人数が学習できるよう工夫、レイアウトを変更し、学習席を確保。 【たじみ陶器まつりアンケートより】 子どものリズム遊び、楽器遊び講座開催の要望 ・リズム遊び講座の継続、世界の太鼓を使用した「ドラムサークル」イベント開催を決定。 保育園、幼稚園の園庭開放の情報がほしい ・ママ&キッズサポートコーナーの充実を図り、フリーペーパーや育児本などととも情報をもとめて発信。	期待以上 9点	・さまざまなニーズに迅速かつ適切に対応した。 ・中学生、高校生の自主学習の場所を提供しているが、ニーズに合わせて可変性のある家具を最大限に利用し、狭い場所ながら広く使用するよう努めた。 ・たじみ陶器まつりの「ベビーステーション」の際に実施したアンケートをもとに、小さな子どもを持つご家庭のニーズの把握することができ、運営に活かした。3つのファミリーワークショップを新規開催した。 ・子育てのための情報を収集し、まとめて発信することで、手に取りやすい環境を整備した。多治見市の情報の他、東海地区のフリーペーパーや図書資料としての育児本など、幅広く発信する場所を確保、子どもを持つ親子の情報収集の場となっており、交流を創出した。	9点
			②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3~1点 ※苦情なしは4点とする	・おしゃべりを楽しむ中学生に対して、「うるさいが注意はしないのか。」と仰る方があり、子ども情報センターは、本を借りるだけの場所ではなく、子ども同士のコミュニケーションの場でもあり、活動の場であること、をお伝えした。「図書館をわいわいガヤガヤの場所」として大きく打ち出すためには、利用されるみなさまのご理解がまだまだ必要だが、「図書館では静かに、」といった従来のフレーズではなく、必要なら自らがトーンを抑えていくような環境作りを行っていることを丁寧に話しさせてもらい、ご理解していただいた。	苦情なし・適正(普通) 4点	・図書館とはいえ、時間によっては子ども達の声が響き、静かに本を読みたい方には、迷惑となる場合があるが、おしゃべりをしても良い図書館として、広く子ども達に認知されており、にぎやかな子ども達の居場所としてご理解いただくことができた。また、雰囲気を感じた中学生も一旦戸外へ移動、見計らって室内に戻り勉強を始めるなど、子ども達自身も行動を振り返る機会をもてたことは、収穫だった。	4点
		(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1~3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)	15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が期待以上:15~12点、適正(普通):11~9点、普通未満~物足りない:8~0点	図書館としての機能を高め、最大限に活かす提案 ・目隠しルーバー設置 女子トイレの覗きや侵入の危険回避し、長時間の滞在をサポート。 ・図書館オンラインサービスの案内 積極的な告知と丁寧な説明、確実な伝達で推進。 高校生の活動サポート 事業依頼ではなく高校生自らの発信を支える取り組み ・多治見北高校美術部 ギャラリー展示とワークショップ。子ども情報センターで小さな子ども達に伝えたい作品の制作と展示活動を支援。 ・多治見北高校放送部 ドキュメンタリー作品「～つながれる想い～笑顔あふれる絵本の会」。11年間継続してきた多治見北高校の生徒による 絵本の会をおはなしの会ボランティア、職員インタビュー によって構成した 作品制作支援 。高校生が、 地域での活動を考え、推進していく意味を掘り下げる作品を制作することで、次の活動へのステップにつながった。 充実した夏休み事業 ・夏休みおたすけ窓口 退職教員による子どもの見守りと居場所の提供。読書感想文や調べ学習等、図書室を十分に活用し、楽しくて効果的な学習への支援。8日間開催延べ160人。 ・朝日小学生新聞の社員が教える文章・ノートまとめ術 新聞記者のノートを手本に、ノートのまとめ方、文章の組み立て方を学習。夏休みの出来事を題材に親子で新聞を作成。子ども達にとって馴染みのなかった新聞もノートまとめの観点から学習を進めることでわかりやすく、学校生活に活かせる講座となった。延べ23組の親子。	期待以上 14点	・目隠しルーバー設置など、図書館として、居心地がよく長時間滞在ができるような整備ができた。 ・地元の高校とタッグを組み、何年も継続して事業に取り組むことで、事業を依頼するのではなく、高校生自らが発信し、自主的な活動に展開していく姿が見られるようになってきている。高校生のひとつひとつの活動を支え、丁寧な事業展開の成果と考えている。 ・乳児から幼児までは、子育てママのスタート講座、わくわく親子講座などが充実しており、ウイークデイに事業開催できている。小学生、中学生に向けては、夏休みを活かし、継続して取り組めるような講座を開講した。特に、「朝日小学生新聞の社員が教える文章・ノートまとめ術」では、事前準備なども含めて、学習につながる内容を、楽しく、わかりやすく伝える講座として開催でき、大変好評だった。	14点	
5	その他 (減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする (遅れ・不備内容の程度により△1~△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3		遅れ・不備なし 減点なし		0点	
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1~△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3		指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし		0点	
合計			100	【4段階評価】 極めて良好 100~85点 良好 84~65点 努力が必要 64~45点 取消し等を検討 44点以下				合計89点	
								全体的な評価 ・予防保全の観点からの建物管理を行い、不具合箇所早期発見に努め、改修費を最小限に抑えた。 ・木版画アートディレクター、ニット作家などの専門的な講師を迎えてのワークショップなど、子どもだけではなく、子育て中の親たちも参加して楽しむ充実した講座を開講し、多治見での子育てを支える施設としての事業展開ができた。 ・地元高校生たちの部活動を発表する場を提供し、活動を支援していく中で、高校生自ら子ども達と触れ合う場を創出し、活躍に至っている。高校生によるひとつひとつの事業に丁寧に寄り添い、意欲を引き出す支援ができた。 ・子ども達にとって図書館をより利用しやすくするために工夫を重ね、図書貸出人数、貸出冊数は、12年間連続の増加を記録、とりわけ13歳から22歳の若い世代に積極的にアプローチし、利用者数、貸出冊数を大幅に伸ばした。	極めて良好